

札幌市円山動物園×気候変動教育プロジェクト プログラム検討ワークショップ

プロジェクトのねらい

動物園は、生き物とのふれあいをとおしてその生息環境に思いを寄せ、生物多様性の意味や地球規模の環境変化と私たちの暮らしとのつながりを知る、気づき・学びの場として大きな可能性を持ちます。札幌市円山動物園は、年間100万人前後が訪れる市民に身近な施設であるとともに、近隣小中学校における授業やプログラム実施、展示をとおした情報・メッセージ発信、施設での再生可能エネルギーの活用や解説等、さまざまな手法で環境教育を展開しています。こうした実績や経緯を踏まえ、動物園での気候変動を切り口とするESD（持続可能な開発のための教育）の開発・実践の可能性について、関係者による連続ワークショップ（非公開）を開催して検討し、「動物園×気候変動」をテーマとする取り組みメニューを作成します。成果は道内他地域の動物園・水族館にも共有してゆきます。



園内フィールドワーク

内容とスケジュール

第1回 7/20

- 情報共有とアイデア出し
- ・ 目的と進め方の確認
- ・ 円山動物園の基本方針や環境教育の取り組みの情報共有
- ・ 園内見学とアイデア出し

第2回 9/6

- コンテンツの検討
- ・ ワークショップ参加者からのアイデア提示
- ・ 全体像の確認と意見交換

第3回 10/31

- コンテンツ整理と実施体制の検討
- ・ 強みや特性、めあてを踏まえた有効なコンテンツの検討
- ・ 実現する上での課題と解決策の検討

地域フォーラム(予定)

2024年1月、アイデア実現のための発信、市政や企業、専門家の方々との協働のきっかけの場として公開で地域フォーラムを開催予定



ワークショップの実施状況

参加者(50音順・敬称略)

コアメンバー

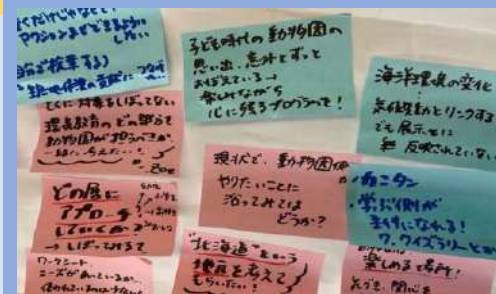
工藤知美 NPO法人EnVision環境保全事務所
 小林ユミ NPO法人北海道グリーンファンド
 寺田千里 合同会社エゾリンク
 山崎真実 札幌市博物館活動センター
 鈴木康磁 株式会社アドバコム
 吉中厚裕 酪農学園大学農食環境学群環境共生学類 教授

オブザーバー

札幌市環境局 環境都市推進部 環境政策課
 北海道地方環境事務所
 ほか

事務局

北海道地方ESD活動支援センター、札幌市円山動物園



アイデア出しの作業

札幌市円山動物園の強み／気候変動教育の場として伝えたいこと

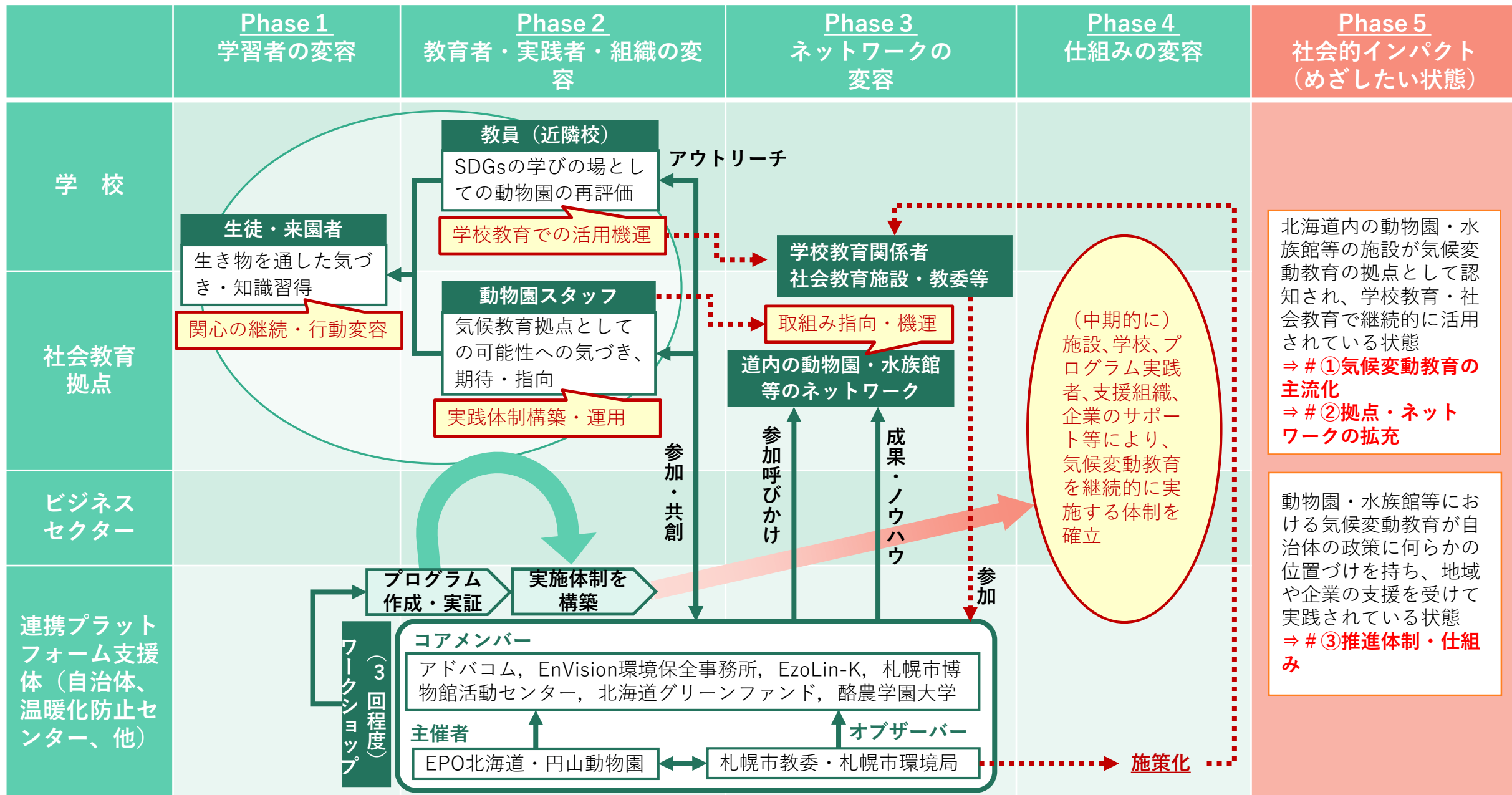
1. 札幌市円山動物園の強み・特性

- ① 気候変動への関心が低い、環境教育が届きにくい層にもアプローチ可能
若手子育て世代、市内外の学校・学年単位の子もたちなどに直接メッセージを発信できる。
- ② 生きた動物と出会い、触れ合う楽しみを提供できる
動物への好奇心・愛着をとおして遠い生息地の環境や未来への想像力を引き出すことができる。
- ③ 年間約100万人の来場者と絶大なネームバリュー
企業による支援・社会貢献や市の環境政策のショールームとしてのポテンシャルが高い。メディアや園外での発信力（影響力）が大きい。
- ④ 専門性を有するたくさんの職員の存在（知的・人的基盤）
飼育現場のリアルや生息地調査等に基づくインタープリテーションを提供できる。
- ⑤ 気候・エネルギー対策の取組・設備が豊富
次世代エネルギーパーク、園内の再エネ設備、堆肥化施設等、動物園の取組を生かしたプログラム・展示が可能であり、動物舎、売店、食堂等今後活用できる施設も多数ある。
- ⑥ 寄付や人材の受け入れ体制が整備されている
動物園応援基金、さっぽろ円山動物園サポートクラブなど寄付の受け皿が存在し、ボランティアによるガイド・行事等も行われている。

2. 気候変動教育の場としての動物園で／から伝えたいこと

- ① 気候変動による環境変化が世界各地で動物の生息を脅かし、対策が急がれていること
（関連）生息域の縮小（ホッキョクグマ、ユキヒョウ等）、害虫・害獣の生息拡大、環境変化にともなう人間活動の影響、山火事の激化…
- ② 気候変動の影響は遠い世界の話ではなく、すでに北海道でも現実化していること
（関連）猛暑、自然災害、外来種の定着、農業への影響、漁獲の変化…
- ③ 気候変動は私たちの生活や経済に起因しており、動物園にも私たちにできること／やるべきことがたくさんあること
（関連）省エネ・再エネの効用、地産地消・エシカル消費、環境教育、eモビリティ、ESG投資、緩和策…
- ④ 気候変動対策（再エネ等）と動物たちの生息環境の保全は両立させなければならないこと
（関連）SDGsの世界観・課題間のつながり、地域共生型再エネ、ワイズユース、先住民の生活文化…

※ 黒字：2023年度、茶字：アウトカム目標



背景

気候変動

青森県で起きている気候変動の影響

豪雨被害
2021年はむつ市、
2022年には津軽地区で
豪雨による甚大な被害



りんご
気温上昇の影響で
色づきが悪くなっている
豪雨での農園被害も



桜
桜の開花が早まっている
桜まつりの開催も早まり
観光・経済への影響も



海産物
気温上昇、海洋ごみ
ホタテやいか等の生息域、
品質、水揚量への影響



教育

気候変動問題に対する教育推進

国 文科省/環境省
気候変動をはじめとした
地球環境問題に関する教育
の充実についての通達



コネスコ
CCESDの提唱 2009年~
(Climate Change Education for Sustainable Development)
ホールスクールアプローチ



ESD推進ネットワーク
気候変動を切り口とした
ESDの推進



巻き込みたい！

- 青森地方気象台
気候変動に関するデータの情報提供
→ 学びとデータの整合性

- アップルウェーブ株式会社
・ プロジェクトの見える化
→ 動画でのとりまとめ？
・ ラジオでの活動発信？



あおもり気候変動教育プロジェクト(仮)

令和5年度 東北地方ESD活動支援センター ESD for 2030学び合いプロジェクト

目標

- 新たなプログラムを1から生み出すのではなく、既存の取組、環境活動への気候変動視点の導入【 学びの連続性・深まり、教員の負担軽減 】
 - ローカルの課題、地域資源への影響から、数値的な情報も含めた実感を伴う学びの機会の創出
 - 総合的な学習での単発教科での展開ではなく、各関連教科と連動したプログラムづくり
 - ESD地域コーディネーターと地域ESD推進拠点が協働したプログラム展開
- ※ 長期的ビジョン？
- 「気候非常事態宣言」発出を視野に入れた具体アクションの検討【 行政への提言、学校での継続した取り組みへの発展 】

概要

- 7~8月？ 第1回勉強会
- 9月？ 第2回勉強会
- 11月？ 実践活動
- 12月？ 意見交換
プロジェクトメンバーによる全体振り返りの場
プログラムの成果、課題の整理

プロジェクトメンバー

- 貝森毅彦氏**
ESD地域コーディネーター(青森県)
青森県・市地球温暖化防止活動推進員
- 藤公晴氏**
青森大学 社会学部教授
SDGs研究センター長
EPO東北 事業検討委員
- 内藤恵子氏**
ESD地域コーディネーター(宮城県)
仙台ユネスコ協会 副会長
- 浅野亮氏**
気仙沼市
宮城教育大学連携センター
主任運営員
東北地方ESD活動支援センター
企画運営委員
- 齋藤修一氏**
ESD地域コーディネーター(福島県)
東北地方ESD活動支援センター
企画運営委員
- 市瀬智紀氏**
宮城教育大学 教育学部
国際教育領域 教授
ESD/ユネスコスクール
東北コンソーシアム 運営委員長
東北地方ESD活動支援センター
企画運営委員
- 盛秀一氏**
(ESD拠点)青森市立千刈小学校 校長
- 山崎斉氏**
(ESD拠点)青森市立堤小学校 校長
- 三浦麻子氏**
(ESD拠点) 青森県環境パートナーシップセンター
事務局長

青森市立堤小学校

POINT
現場の生の声を聞く
重要性

生徒の言葉
自分たちが調べたこと
を誰かに伝えたい！
自分たちで行動するのでは
なく地域に広めたい！

6/9

第1回勉強会



ゲストティーチャーから
学ぶ気候変動の影響
①リンゴ農家
②ホタテ漁師
③種苗店（農家）

7/12

第2回勉強会



青森地方気象台を招いて
データから学ぶ気候変動の状況

11/7

第3回勉強会

あおもりSDGsカルタを
活用したワークショップ

12/4

12/10

12/14

第4回勉強会

両校の教員を対象とした、
気候変動教育、SDGs勉強会を
開催する

- 概要編
青森大学 教授 藤公晴氏
- 実践編
（公財）みやぎ・環境とくら
し・ネットワーク 亀崎英治氏

1月中

実践活動

オンライン交流会

- 参加校
青森市立堤小学校
青森市立千刈小学校
気仙沼市立鹿折小学校

それぞれ活動を発表し合
い、今自分たちができる
行動について意見交換を
行う

1月中

2月中

意見交換

プロジェクトメンバーで
プロジェクトの成果・課題を
整理する

2月中

青森市立千刈小学校

ESDネットワーク×気候変動教育の進捗の可視化マトリクス様式

プロジェクト・センター名

ESDfor2030学び合いプロジェクト
 東北モデルプログラム「ローカルから考える気候変動教育」 / 東北ESDセンター

Phase 1
 学習者の変容

Phase 2
 教育者・実践者・
 組織の変容

Phase 3
 ネットワークの
 変容

Phase 4
 仕組みの変容

Phase 5
 社会的インパクト
 (めざしたい状態)

学 校

青森市立千刈小学校 (ESD拠点)

【児童】地域の現状や人、モノに触れ自分事化、行動へ

【担当教員】コーディネーターや地域と連動してESDに取り組める実感

青森市立堤小学校 (ESD拠点)

【担当教員】気候変動を関連教科と連動して伝えることができる実感

青森大学 (ESD拠点)

【学生】教える・伝えることの学び。キャリア教育

【大学】地域の学校・児童と学生の交流の機会の創出

気仙沼市立鹿折小学校

地域を超えた交流による学びのつながり

ESD地域コーディネーター

ゲストティチャー

教育機関と連携できた自信

青森県温暖化センター (ESD拠点)

気候変動の緩和と適応について教育のあり方の実感

推進員への共有

青森地方气象台

青森県教育委員会

青森県内のESD活動の認知 指導主事への共有

地域人材の活用

地域に育てもらう学校

異文化交流
 世代間交流

ツールの活用

教科横断展開

気候変動教育の主流化

地域事例の提供（生の声、体験、データ、ツール）により、自分事化、行動変容を促す（児童）

プログラムが継続的に実践される学校（教員）全体の理解・行動変容を促す

東北内・外から支え合うプログラムの実践体制

学校外から活動を支えるESDネットワークの構築

各地域に横展開した際にカスタマイズしすぐに実践できるモデルプログラムの創出

ローカル課題を重点的に取り上げ教科横断的に教育課程を進める

ビジネス
 セクター

連携プラットフォーム支援体（自治体、温暖化防止センター、他）

社会教育拠点

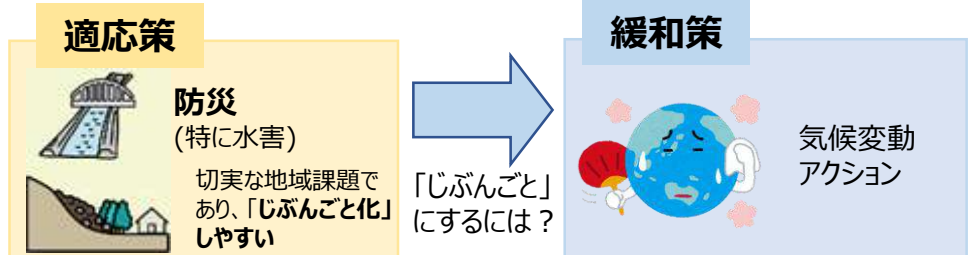
企画運営委員

東北一体の連携によるプログラム構築

プログラムに対する評価・分析を行う場の創出

関東ESD活動支援センター「気候変動じぶんごと化プロジェクト」

テーマ「**気候変動**×○○」で、身近で多様な社会課題とつなげて、気候変動への取組意欲の向上を目指す



令和4年度の学びあいプロジェクトでは、千葉県流山市において「気候変動に適応した実践型防災教育」をテーマに実施。令和5年度は、その資源を活かしつつ、「緩和策」とのつながりが弱い点があるため、どのような形にしたなら、個々人が緩和策への取り組みの実践に繋がるか、「じぶんごと化」する方策を考えたい。

緩和策の取組の課題

- 目に見えない温室効果ガス
- 生活感とかけ離れた時間・空間スケール
- 因果関係、世代間不公平が見えにくい
- 困難な課題に対する無力感

自分だけやっても…
「じぶんごと」とは、
なかなか思えない

気候変動じぶんごと化プロジェクト

- 地域の課題
- 身近な題材
- 別ジャンルの団体

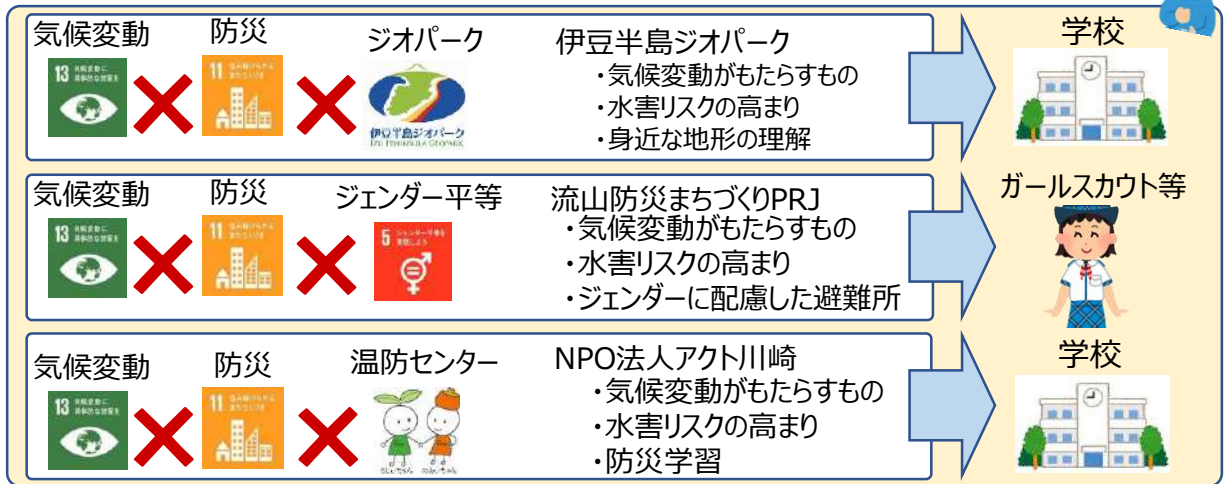
との掛け算のプログラムを開発

アドバイザリーグループ

東海大学 人間環境学研究科 スチューデントアチーブメントセンター教授 ニノ宮リムさち氏
 国立環境研究所 気候変動適応センター 気候変動適応チーフコーディネーター 砂川淳氏
 静岡県地球温暖化防止活動推進センター 事業統括マネージャー 青島加奈氏

アドバイス／一緒に考える
なるほど！
CO2削減は、大事だね

モデルプログラム



第一回プログラム検討会から見えてきたこと（仮） 気候変動への取組意欲の向上

持続可能な社会を創るために、自ら考え、生み出す力を養う

シチズンシップ教育

- ・地域の一員としての役割があり、それが果たせるという経験は、シチズンシップ教育としても重要
- ・「社会を変革していく、媒介になる人（シビックエージェンシー）」は、気候変動へのアクションに限らず、どの分野でも、地域でも重要
- ・大人に対して、考えていることや、地域について調べたことを発信する経験を積んでいく、子供たちが大人に伝えることも大事
- ・「地域で何かやってみよう」と思う子供たちが育っていける社会教育の仕掛けがポイントとなる

気候変動への基礎的な理解を持った上で、「持続可能な社会の創るための方法」などについて学び、行動がとれるようなESD的な人材育成が必要。

ポイント

- ・気候変動のメカニズム、原因を含めた根本的な理解が重要
→ 緩和と適応を切り分ける必要性はない。両輪で進める
- ・気候変動を自分事化するためには、自分自身の生活とつながりがあるという体感が重要 → 災害時のエネルギー問題
- ・「日常的に再エネ・省エネを利用して緩和策にもアプローチし、災害時に活用できる」など、平常時と災害時の違いをなくす
- ・気候変動教育のゴール = 子どもの行動変容、気候変動へのアクションだけではない → 子どもから大人へ、発言の機会・アドボカシーも重要

気を付けること

「気候変動」は、大きな課題なので、個のアクションに注目しすぎると、無力感が育ち、「気候不安症」に陥る
→ ポジティブなアクションを、多様な主体とともに一緒にやる機会を作ることがポイント



「気候変動」×「防災」

気候変動リスクを自分ゴト化するために、より有効なプログラムとするには？

気候変動 防災 ジェンダー平等



流山防災まちづくりプロジェクト

- ・気候変動がもたらすもの
- ・水害リスクの高まり
- ・ジェンダーに配慮した避難所

- ・個々人の関心がある入り口（ジェンダー・ペット・気象・地域風土等）から、自分事化することで、待たなしの気候変動対策にも結び付く手ごたえ
- ・熱中症はもはや、災害。気候変動×防災×熱中症のアプローチも重要
- ・ガールスカウトの子どもたちと一緒に取り組みを考える

気候変動 防災 ジオパーク



伊豆半島ジオパーク

- ・気候変動がもたらすもの
- ・水害リスクの高まり
- ・身近な地形の理解

- ・社会教育のプログラムの壁；親の関心度・親の経済が「環境教育格差」の課題にも通じる → ちいさな地域単位で参加できる環境づくりが必要
- ・ジオの強みを活かして、地熱、小水力、太陽光など、再エネのポテンシャルマップを作って防災と掛け合わせることもできるのではないかな

気候変動 防災 温防センター NPO法人アクト川崎(平間小学校)



- ・気候変動がもたらすもの
- ・水害リスクの高まり
- ・防災学習

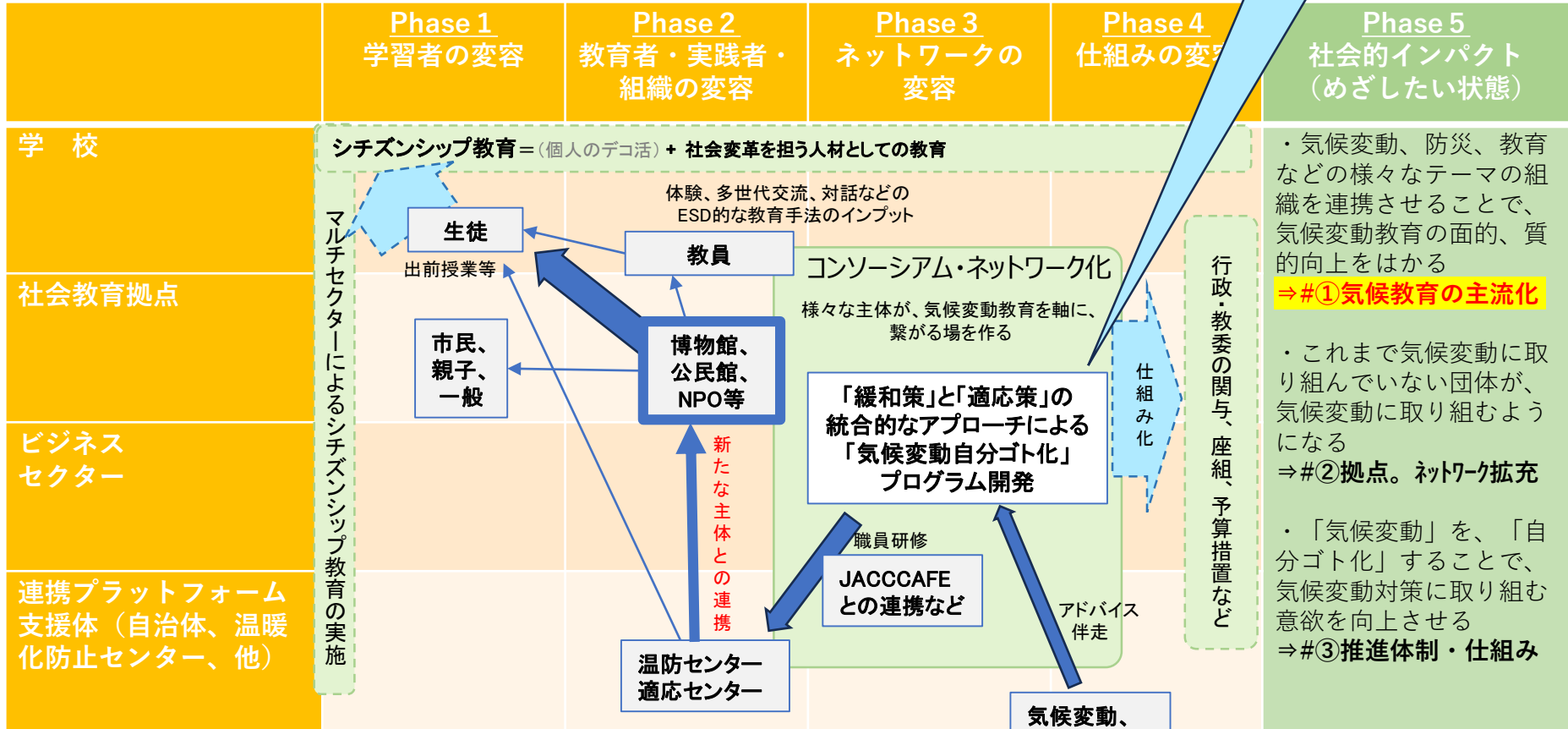
- ・ホールスクール/地域連携アプローチ；子どもたちだけでなく、先生や地域の大人が子どもたちと一緒に、学校・地域全体で気候変動や脱炭素に対して何ができるかを考えていく取組となっている。他校への展開は難しい？
- ・平間SDGsフェスや備えるフェスタ（防災イベント）で地域に情報発信する

ESDネットワーク×気候変動教育の進捗の可視化マトリクス様式（修正3）

プロジェクト・センター名

気候変動じぶんごと化プロジェクト / 関東ESDセンター

自分ごと化するには、全国一律のものだけでなく、地域に根差したプログラム開発が必要



■ESDセンターの役割

- ・ネットワーク化: 後方支援、働きかけ、仕掛け作り、人材紹介・発掘
- ・プログラム: 開発支援、研修等のサポート

ESD推進ネットワークによる気候変動教育の推進（目標）

当面のミッション

気候変動を切り口にESDの可能性を広げ、学校・社会教育への実装によりその効用を実証・可視化する

2030年までに実現したい姿（上位目標）

脱炭素社会への移行を前向きに捉え、公正な移行に貢献する人材を増やしていくための学習・能力開発の機会が学校教育・社会教育それぞれに確立・定着し、受容度の高まりが見られること

2025年までにめざす姿（成果目標）

① 気候変動教育の主流化

学校教育、社会教育（地域拠点及びビジネスセクター）のそれぞれの領域において、主要ステークホルダーに気候変動教育に取り組む必要性・意義が認識され、実践者の増加や支援体制の構築が確認できること

② 拠点・ネットワークの拡充

各地の地球温暖化防止活動推進センター、気候変動適応センター、社会教育施設、環境学習拠点施設・団体等がネットワークに参画し、この分野における地域ESD推進拠点の機能・意義が学校や自治体から認知されていること

③ 推進体制・仕組み

気候変動教育が国・自治体・経済団体等の政策に何らかの形で位置づけられ、実践が広まりはじめていること

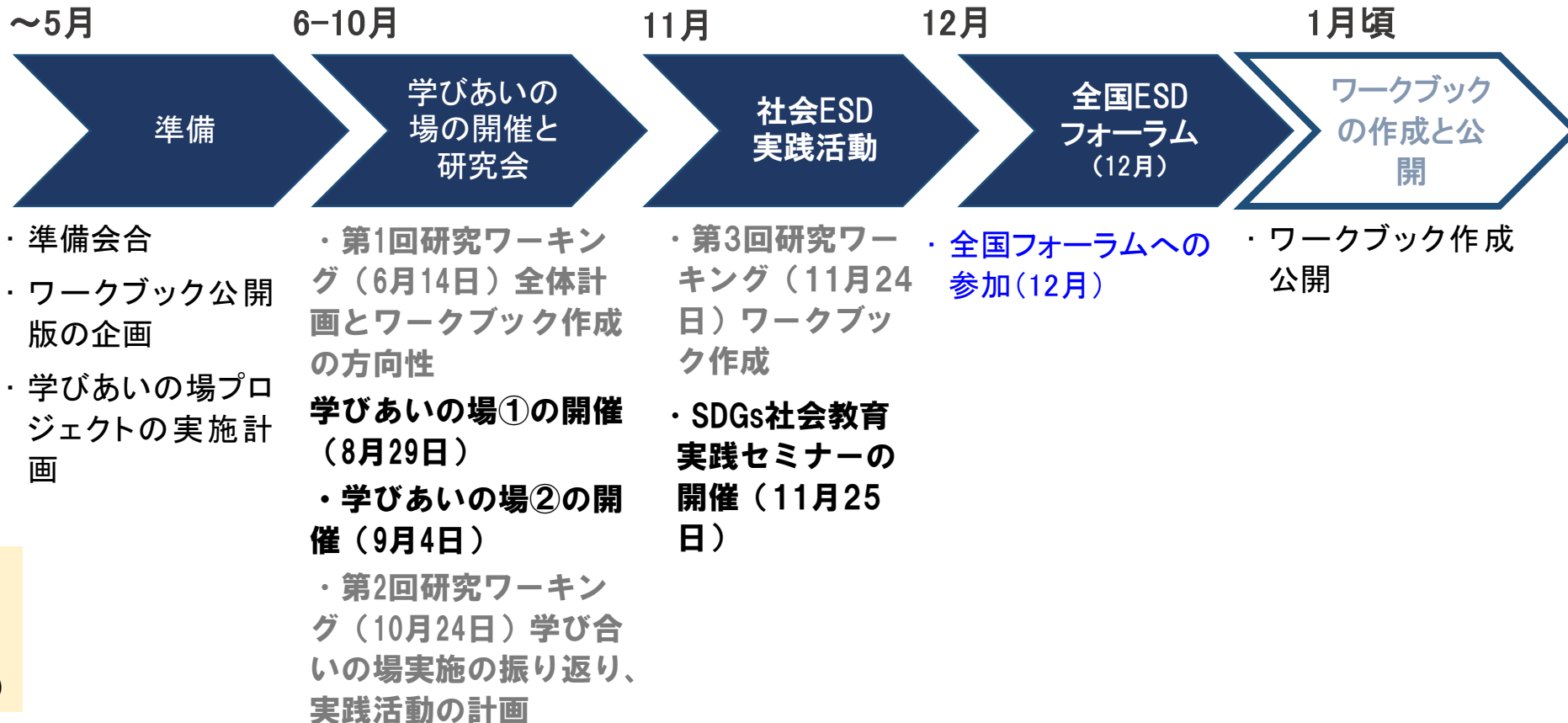
・プロジェクトタイトル

地域づくりのためのSDGs・気候変動社会教育（2023）

・実施目的

気候変動時代のESDを促進するためにESD推進ネットワークで注力する気候変動を切り口とし、地域の状況やニーズに応じたテーマを定めた学び合いの機会を提供することを目的とした「2030学びあいプロジェクト」を企画する。中部地域の学び合いプロジェクトでは、過年度に続き「ローカルSDGsのためのESDの社会実装」を目指すこととする。

・活動内容、実施時期



・実施対象

- オンラインセミナー2回（ESD関係者、一般市民）
- 実践セミナー（現地参加が可能なESD関係者等）

・コアメンバー

SDGs社会教育研究会WG

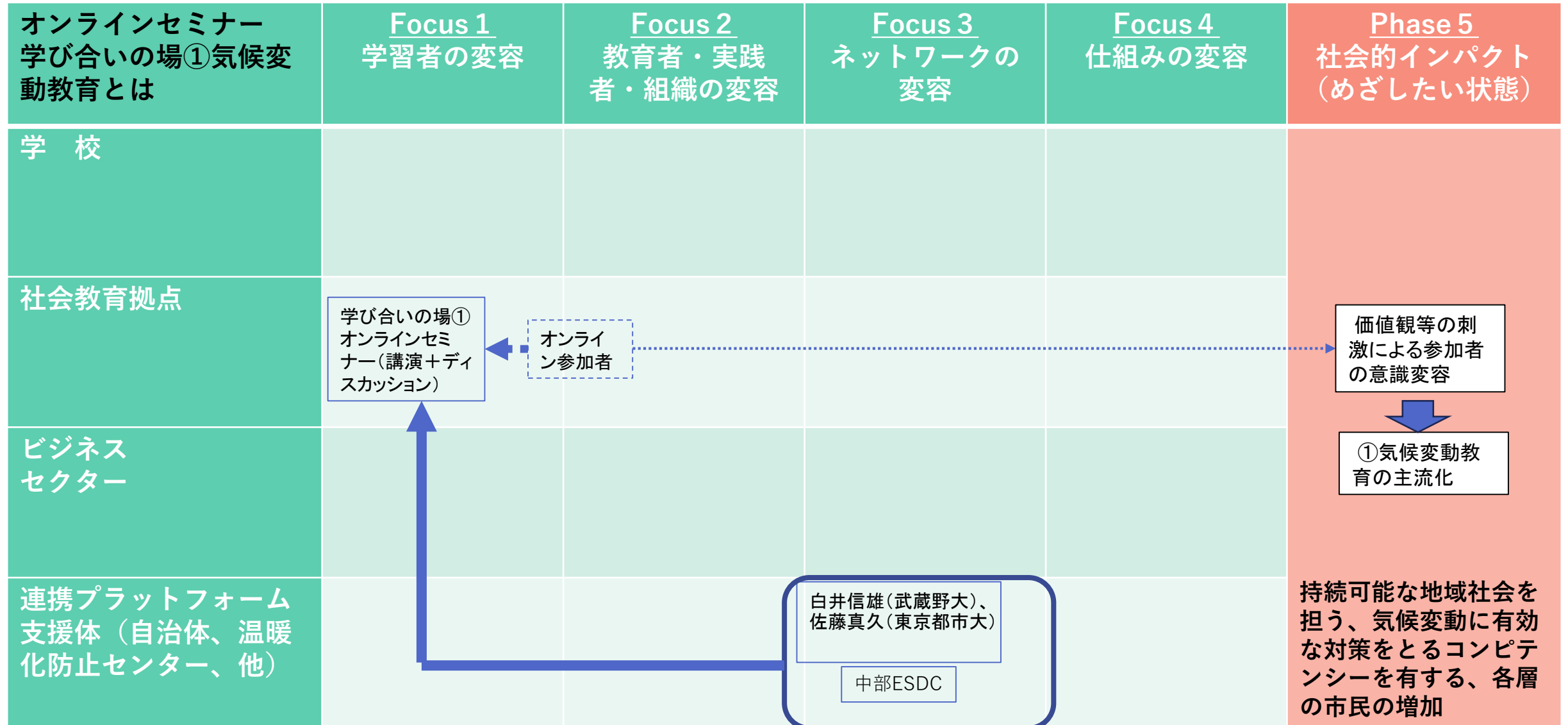
古澤礼太 中部大学国際ESD・SDGsセンター准教授、中部ESD拠点協議会事務局長
水上聡子 EPO中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表
堺 勇人 EPO中部運営委員、一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま(PEGとやま)事務局長
原 理史 中部地方ESD活動支援センター、中部大学国際ESD/SDGsセンター研究員
【オブザーバー】環境省 中部地方環境事務所環境対策課 【事務局】清本三郎 EPO中部統括

ESDネットワーク×気候変動教育の進捗の可視化マトリクス様式

プロジェクト・センター名

地域づくりのためのSDGs・気候変動社会教育（2023）

／ 中部地方ESD活動支援センター



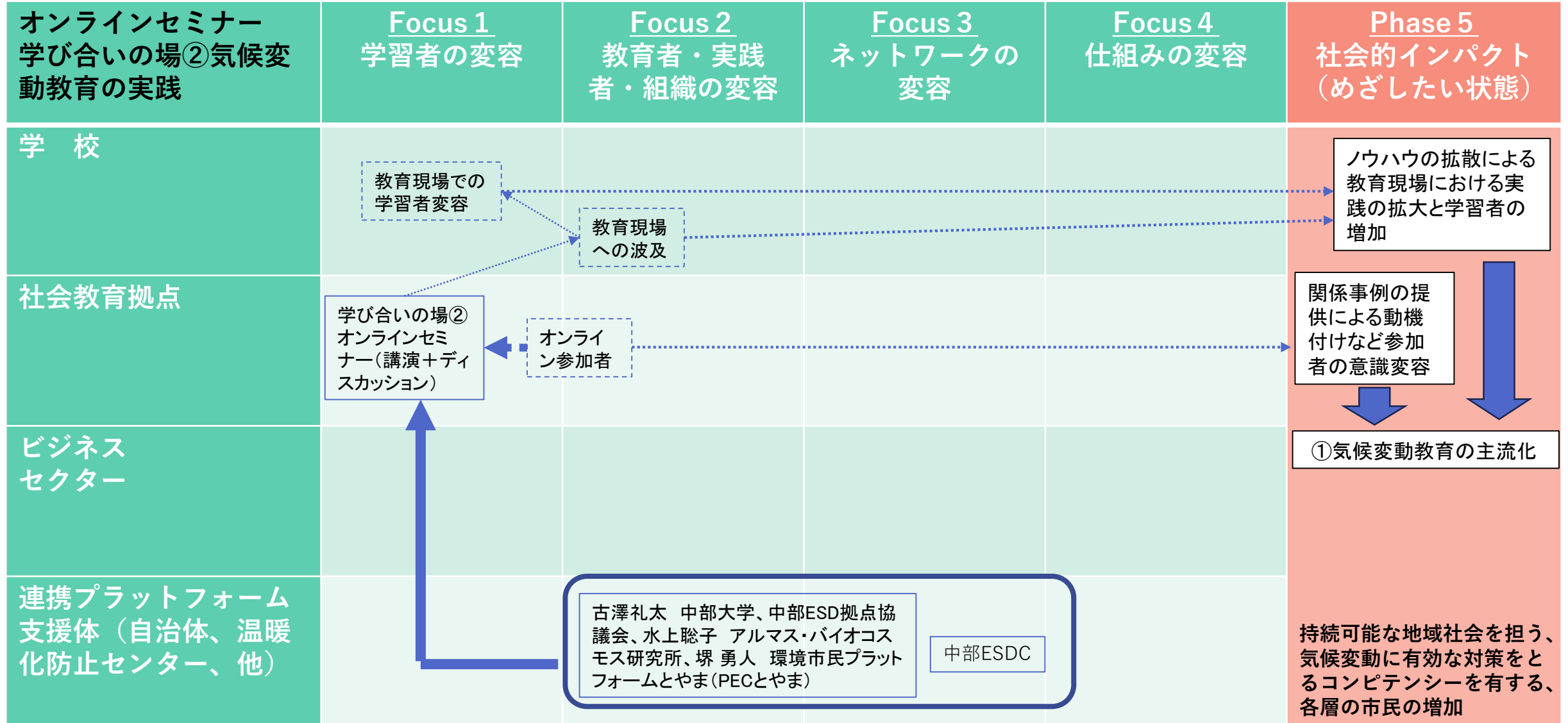
持続可能な地域社会を担う、気候変動に有効な対策をとるコンピテンシーを有する、各層の市民の増加

ESDネットワーク×気候変動教育の進捗の可視化マトリクス様式

プロジェクト・センター名

地域づくりのためのSDGs・気候変動社会教育（2023）

／ 中部地方ESD活動支援センター

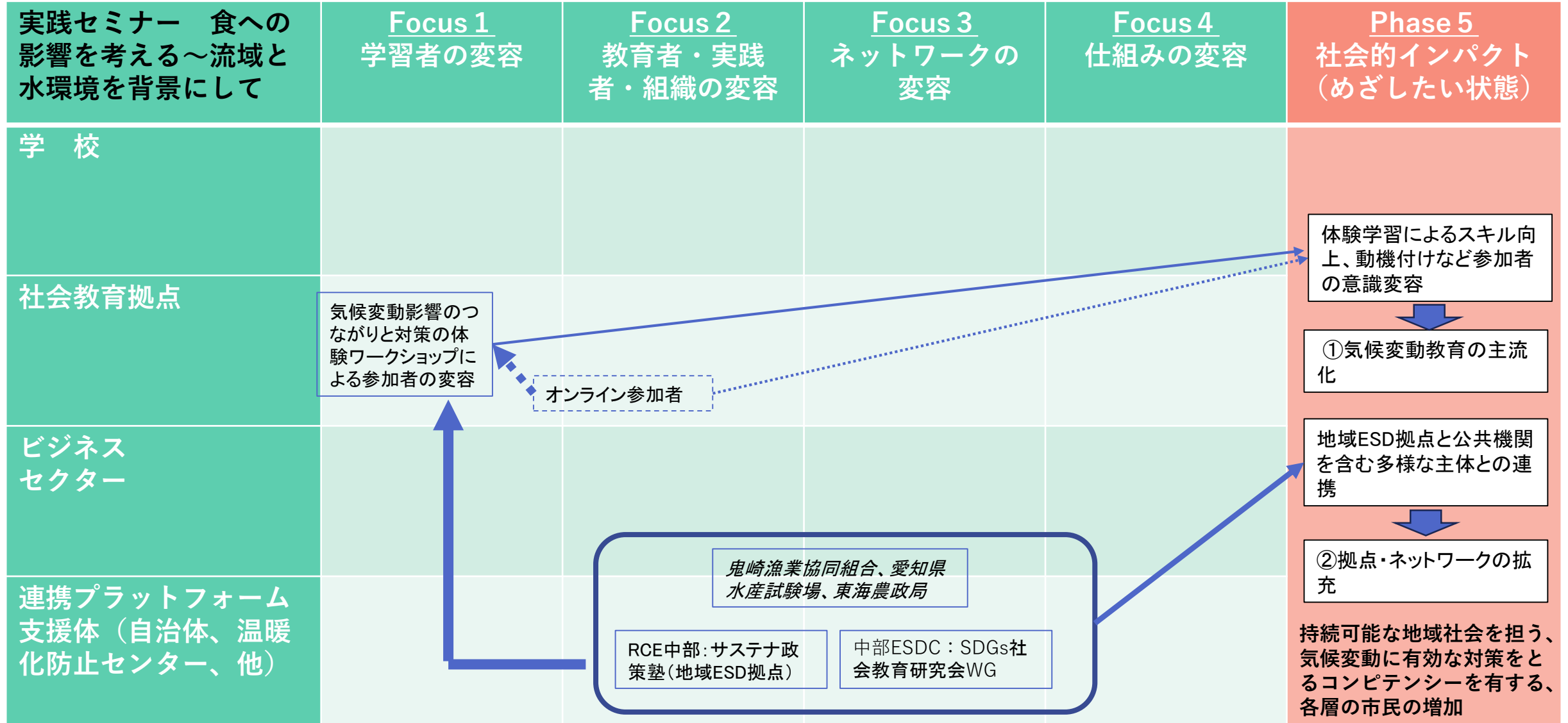


ESDネットワーク×気候変動教育の進捗の可視化マトリクス様式

プロジェクト・センター名

地域づくりのためのSDGs・気候変動社会教育（2023）

／ 中部地方ESD活動支援センター

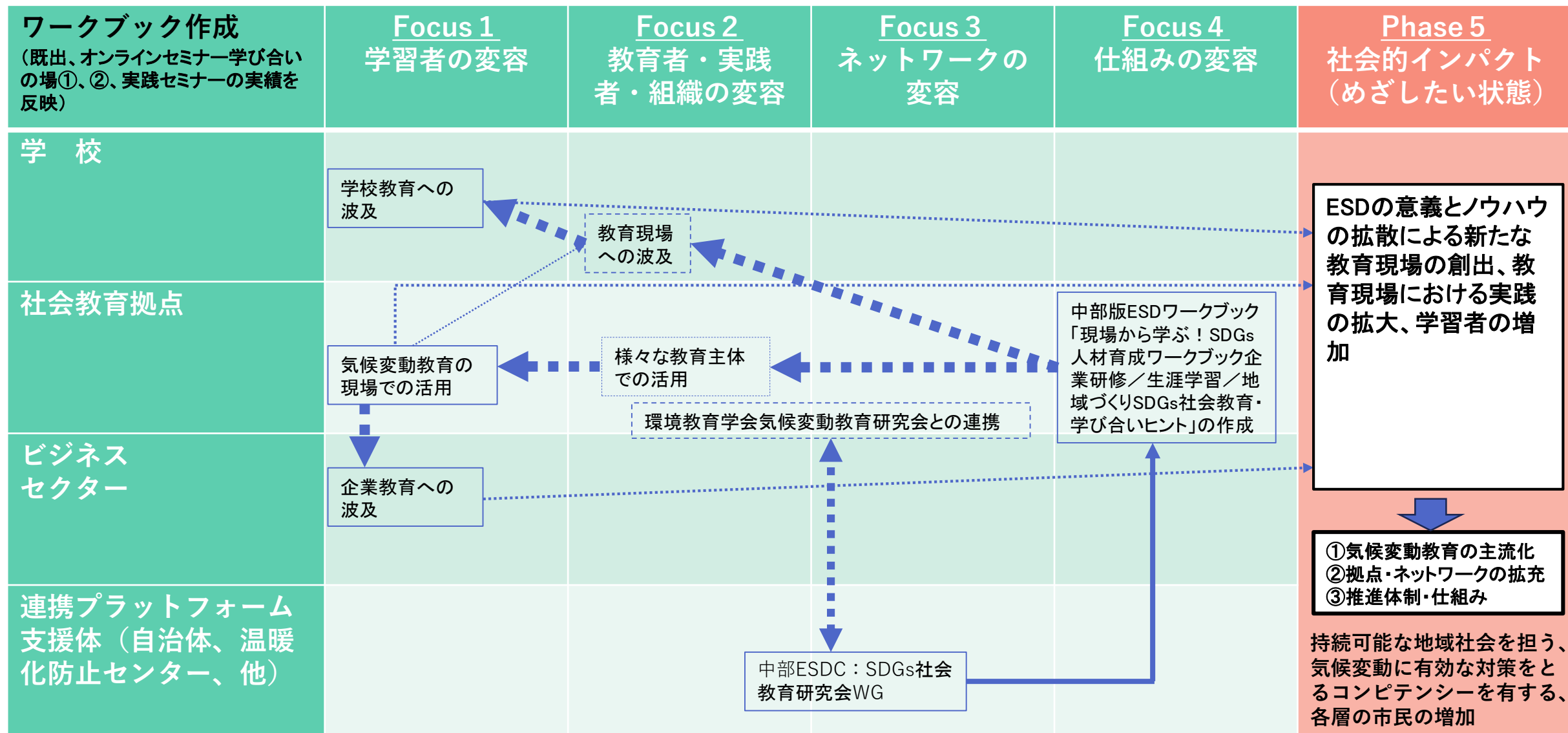


ESDネットワーク×気候変動教育の進捗の可視化マトリクス様式

プロジェクト・センター名

地域づくりのためのSDGs・気候変動社会教育（2023）

／ 中部地方ESD活動支援センター



近畿地方ESD活動支援センター 学び合いプロジェクト概要

2023.11.08 作業部会用資料

学校と地域の連携を目指し、事例紹介と意見交換を行った
(各回対面、2時間)

↓参加者アンケートより抜粋

第1回 昨年度プロジェクトのおさらい

2023年9月30日(土) 参加者 18人
・比叡山中学・高等学校 伊藤由季教諭
・奈良教育大学 中澤静男教授

第2回 学校および学校行政での実践事例について

2023年10月14日(土) 参加者 19人
・和歌山大学教育学部附属小学校 中谷栄作教諭
・橋本市教育委員会 今田実教育長

第3回 NPOと自治体の連携事例の紹介

2023年10月27日(金) 参加者 15人
・京都市、NPO法人気候ネットワーク
・池田市、NPO法人いけだエコスタッフ

第4回 教材の活用例と地域コーディネーターについて

2023年11月18日(土) 申し込み者 17人
・木津川市まち美化推進環境保全指導員 西澤浩美氏

第5回 まとめ

2023年11月25日(土) 申し込み者 19人
・福知山公立大学 谷口知弘教授

参加された方とは、日常で会うことができないのでとても刺激になりました。

地域を教材化するために、コーディネーターの役割が重要と個人的には思っています、その点で本日の橋本市の事例のは参考になりました

NPO側からの取組みのお話が多く、たいへん参考になった。

意見交換のねらい

・環境活動実践者と教関係者が出会い、互いの考え方や進め方の違いを知るとともに、連携のための課題を考える機会とする。
→意見交換の時間が足りず課題の洗い出し以上の深掘りが難しかった。

次年度に向けて

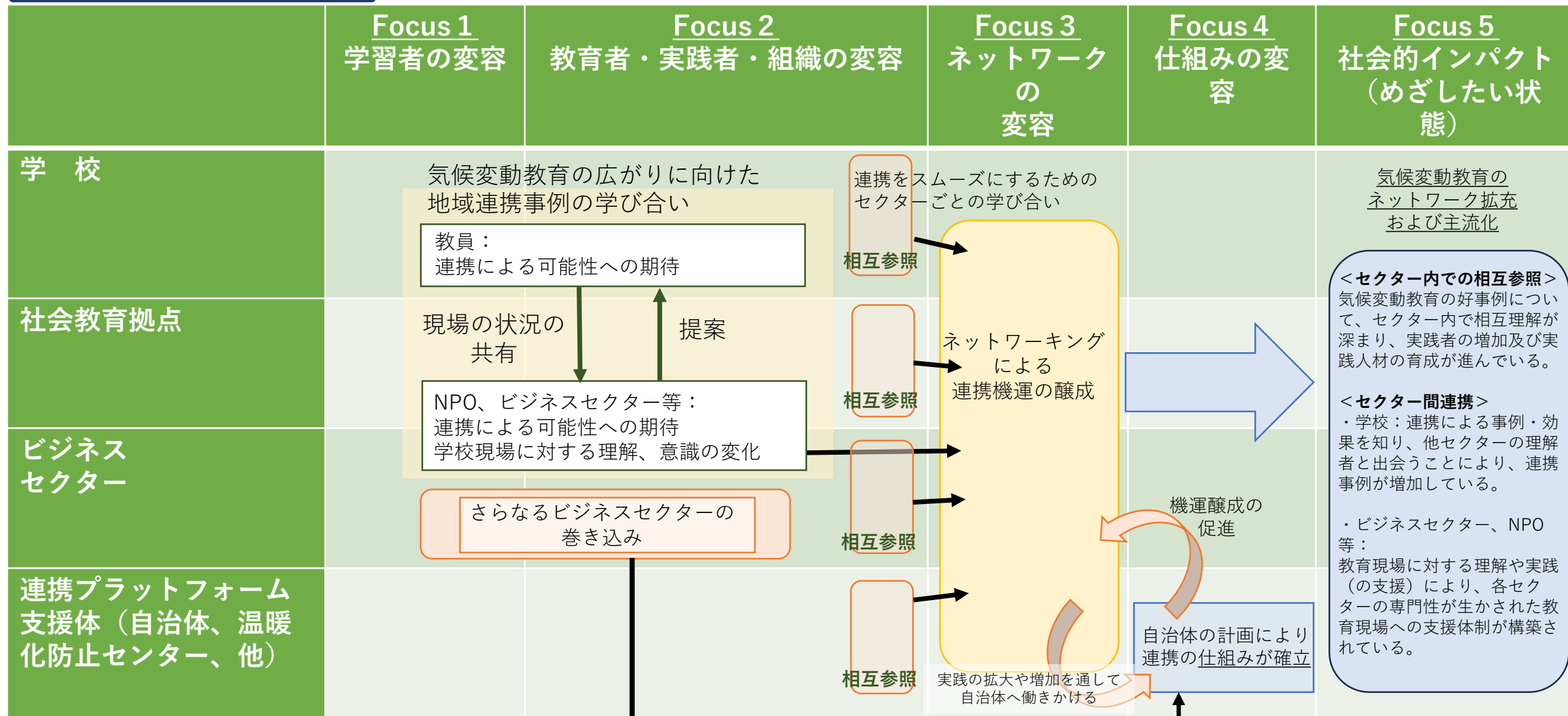
・参加者が交流できる場が必要
・相談対応やヒアリングから地域連携事例の掘り起こしを行っていく
・ESDの実践事例紹介を引き続き行っていく



ESDネットワーク×気候変動教育の進捗の可視化マトリクス様式

プロジェクト・センター名

学校教育関係者を対象とした外部連携のための学びあい / 近畿地方ESD活動支援センター

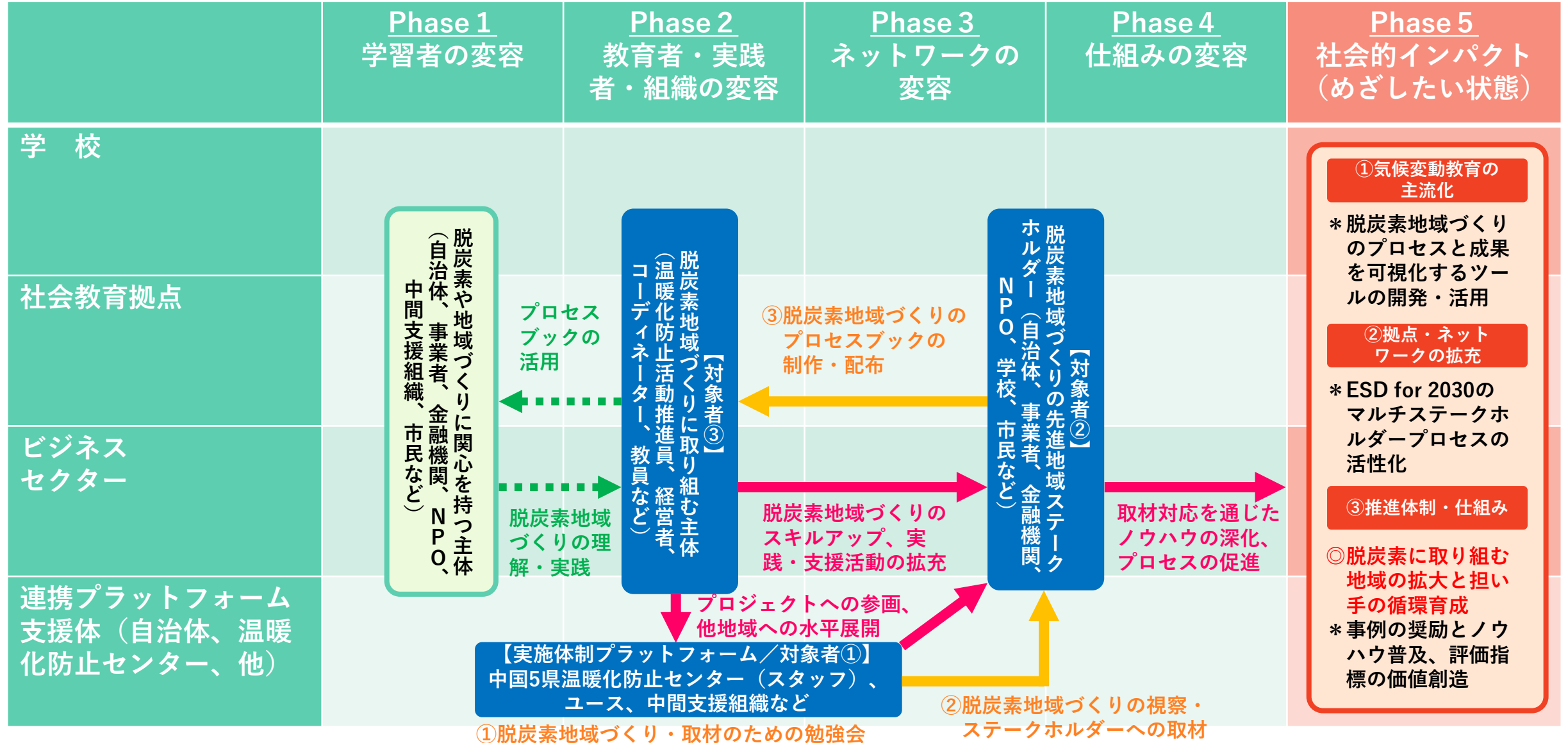


黄…今年の内容 赤…来年度の内容 青…最終的なアウトカム

ESDネットワーク×気候変動教育の進捗の可視化マトリクス様式

プロジェクト・センター名

北栄町脱炭素ロードブック制作プロジェクト / 中国地方ESDセンター





多様な主体による脱炭素地域づくりの推進



北栄町脱炭素ロードブック制作プロジェクト / 中国地方ESDセンター

<事業フロー>

STEP 1 (11月)

説明会・勉強会
区域施策編WS

第2次北栄町環境基本計画区域施策編策定のためのワークショップ

勉強会「0(ゼロ)からわかるゼロカーボン」(11/12)
第1回「あなたの家のゼロカーボン」(11/12)
第2回「みんなでいっしょにゼロカーボン」(11/25)



協力(講師): 地球温暖化防止全国ネット

STEP 2 (1月)

取材活動
原稿・ブック制作

取材候補先

- 北栄町長
- 鳥取みらい電力
- 自治会断熱ワークショップ
- 補助金を活用している一般家庭(町民) など



STEP 3 (2月)

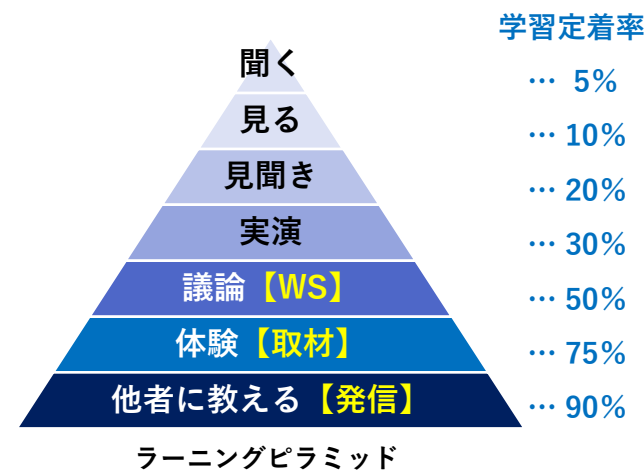
発信活動
ふりかえり

取材・発信活動は、ESDで重視する能力を育成・発揮できる!

- ① 批判的に考える力
- ② 未来像を予測して計画を立てる力
- ③ 多面的・総合的に考える力
- ④ コミュニケーションを行う力
- ⑤ 他者と協力する力
- ⑥ つながりを尊重する力
- ⑦ 進んで参加する態度



レポーター



学び合いプロジェクト:四国ESDバーチャル大学

実施済み

◆第1回 フェアトレード×CCESD ハイブリッド開催 (現地開催+オンライン)

タイトル:「甘いバナナの苦い現実」

日時: 2023年6月22日(木) 13:30~15:00(38名参加)

場所: 新居浜市生涯学習センター

内容: スーパーに行けば当たり前前に買えるバナナ、実はその裏で人権侵害や環境問題と深くつながっていることを知り、他人事ではない「そんなバナナ?」なお話&ワークショップを通じて、私たちの暮らしとの関係を知り、私たちに何ができるのかを一緒に考える機会とした。



実施済み

◆第2回 防災×CCESD 現地開催のみ(オンラインなし)

タイトル:「災害状況バーチャル体験」

日時: 2023年9月8日(金) 10:00~12:00(11名参加)

場所: 香川大学

内容: いつ起きてもおかしくない「南海トラフ地震」。災害発生時、①適切に状況を判断し、②素早い意思決定を行い、③速やかな行動ができることを目指し、災害状況バーチャル体験を実施。「災害状況再現・対応能力訓練システム」を経験し、実際に災害が起きた時どう動くか、頭ではわかっても行動に移すことの難しさ、大切さを知る機会となった。



◆第3回 地産地消と消費者教育×CCESD(仮) オンライン開催

タイトル:「地産地消から気候変動を考える」

日 時: 2024年1月第3週～4週の平日のいずれか

場 所: オンライン

内 容: 第1回「甘いバナナの苦い真実」での学びを意識しながら、ここでは地産地消の重要性や実際の取組(株式会社ハレルヤさんの事例)を知り、気候変動への影響を学ぶ機会とする。

協 力: 株式会社ハレルヤ

◆第4回 CCESDプログラムづくり(仮) オンライン開催

タイトル:「気候変動教育 情報・意見交換会」

日 時: 2024年1月11日(木) 13:00～14:30

場 所: オンライン

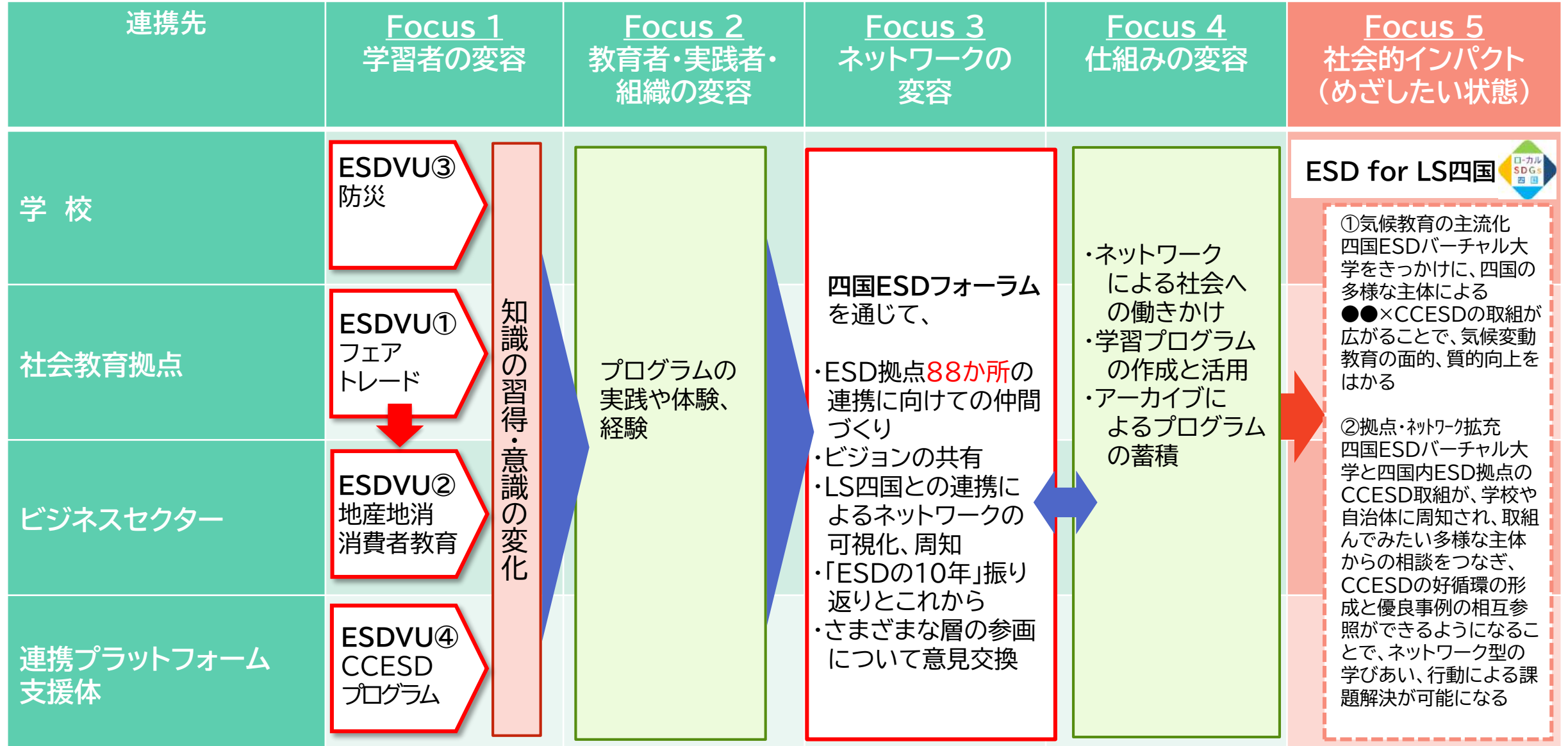
内 容: 10月30日に行われた高知県立大方高等学校とキリバスとの交流動画を視聴しながら、四国各県の地球温暖化防止活動推進センターを中心に、気候変動教育についての情報・意見交換会を行う。

共 催: 高知県温暖化防止活動推進センター

ESDネットワーク×気候変動教育の進捗の可視化マトリクス様式

プロジェクト・センター名

四国ESDバーチャル大学 / 四国ESDセンター



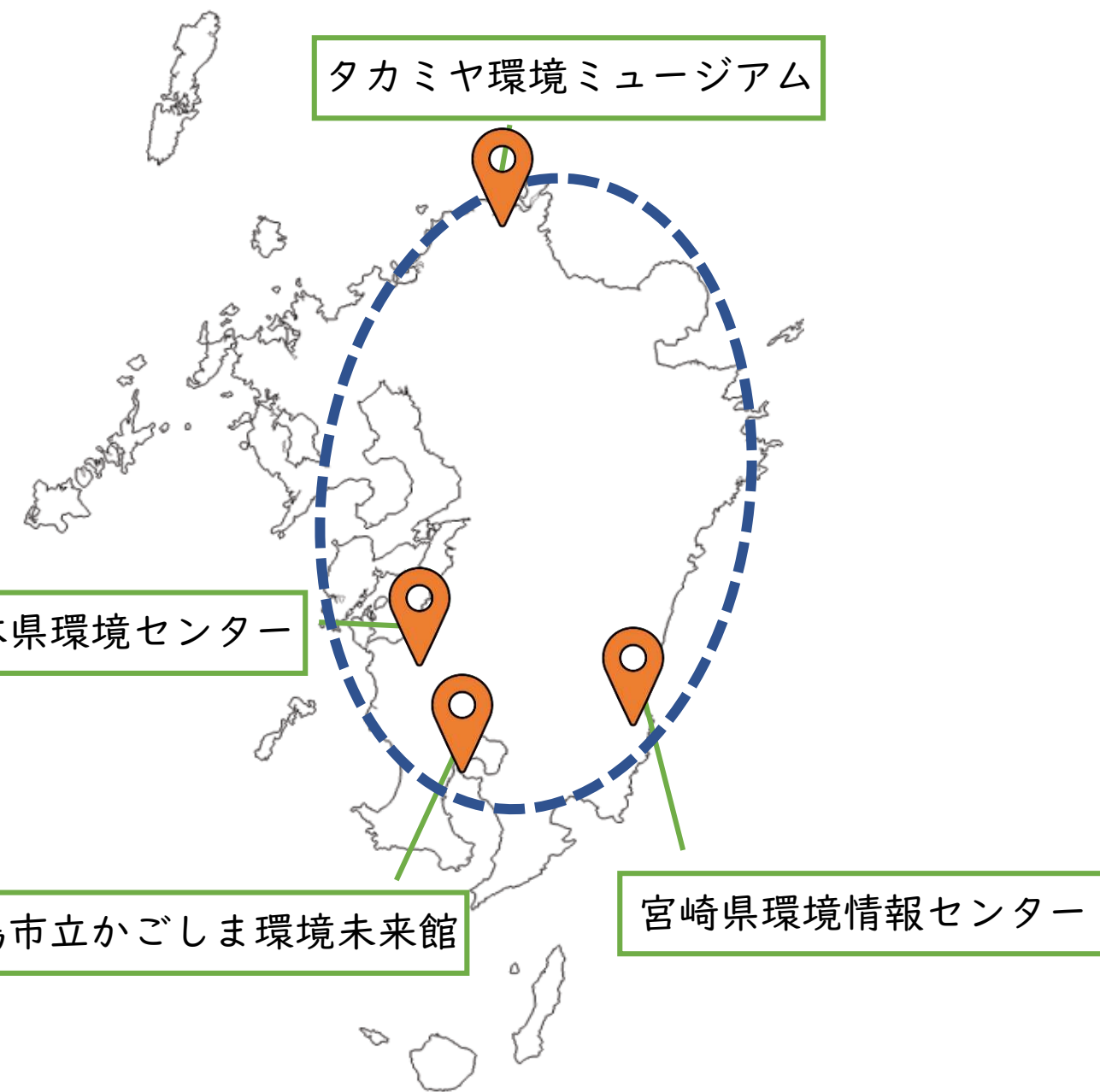
②2030学びあいプロジェクト

気候変動教育推進に向けた環境学習施設のネットワーク形成

●九州各地において、自治体等が設置する環境学習施設が日頃から取組む環境学習・ESD活動に関する情報交換、ノウハウ共有をとおして地域ならではの課題認識を明らかにする。また、気候変動教育・学習のあり方など地域目線での活用方法を含め、関係施設間のネットワークづくりをとおして論点を深める。

環境学習施設等ではすでに地球温暖化防止（緩和・適応）に関する啓発展示等を行っているが、気候変動教育の活用については、情報収集や教材づくり検討段階であり、気候変動教育に関する情報はこれから必要とされる段階にある。

そこで本プロジェクトでは、主要な環境学習施設を対面・オンラインでつなぎ、地域ESD拠点をはじめ、各地域の温暖化防止活動推進センターや関係拠点等を対象とした情報交換・学習会（学び合い）を実施する。



九州の代表的な環境学習施設の相互交流



気候変動教育の手法、必要な教材や人材についての意見交換

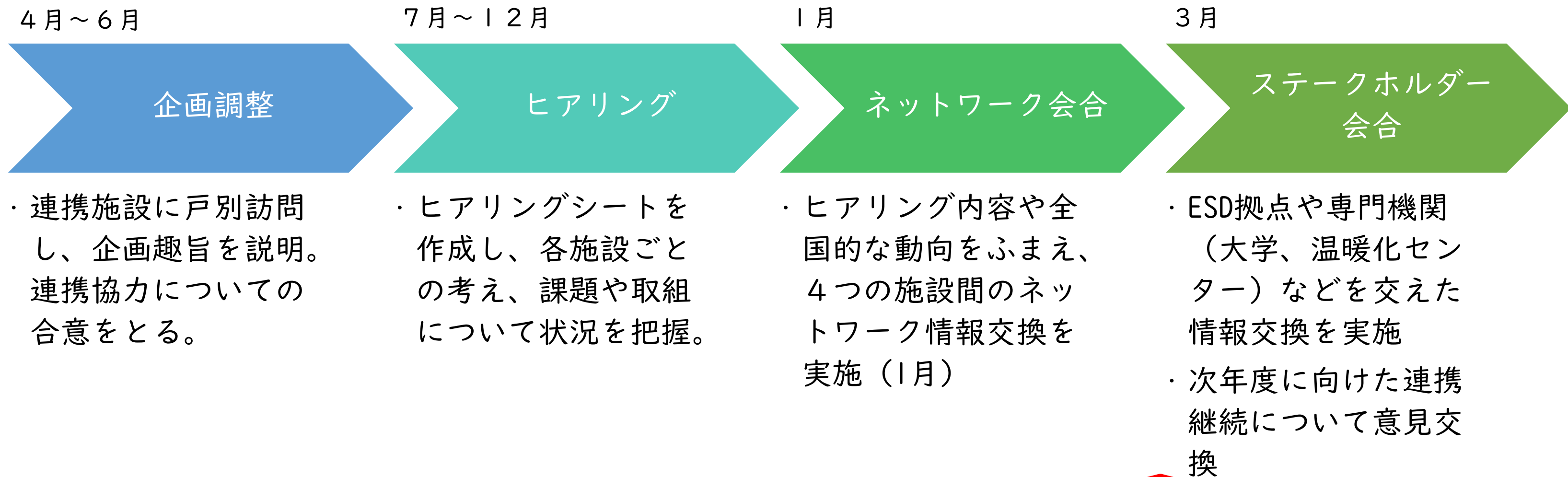


気候変動教育の波及（企業・地域・教育）に向けた課題整理

連携施設

- ・タカミヤ環境ミュージアム
- ・熊本県環境センター
- ・かごしま環境未来館
- ・宮崎県環境情報センター

プロジェクトの進め方



本プロジェクトでは、ESD推進ネットワークによる気候変動教育の推進コンセプトペーパーにおける、2025年までにめざす姿の内、②拠点・ネットワークの拡充に重点をおいた取組を進める。特に、環境学習施設間のネットワーク構築を重視し、これらに専門的な機関や大学等とのネットワークの重層化を図ることで各施設の推進体制や仕組みづくりを促し、気候変動教育を含む環境学習のさらなる推進と主流化を加速させる。

プロジェクト・センター名 **気候変動教育推進に向けた環境学習施設ネットワーク形成／九州ESDセンター**

	Focus 1 学習者の変容	Focus 2 教育者・実践者・ 組織の変容	Focus 3 ネットワークの 変容	Focus 4 仕組みの変容	Focus 5 社会的インパクト (めざしたい状態)
学 校	施設利用による気候変動の理解が深まる				<p>拠点・ネットワーク拡充</p> <p>各施設が地域におけるESD・人材育成推進拠点として存在感が高まり、地域のESDネットワークが広がる。</p> <p>地域における気候変動教育を含むESD推進者としての役割を發揮し、ESDハブ機能が拡充される。</p> <p>専門的な拠点間のネットワークがESDのプレゼンスを高め、気候変動教育を含むSDGs政策や教育実践における主流化に寄与する。</p>
社会教育拠点		環境学習において気候変動に関する情報が強化される	施設連携の対話による、ノウハウ共有。施設間のネットワーク形成	施設等の教育者・指導者の相互交流による研修機会を拡充。	
ビジネス セクター				施設等の教育者・指導者の相互交流による研修機会を拡充。	
連携プラットフォーム フォーム支援体 (自治体、温暖化防止センター、他)					

学校等の学習への展開

ベースとなる拠点ネットワーク形成

地域単位での相互接続

気候変動教育推進に向けたネットワークの拡充

②ネットワーク会合の開催

①個別ヒアリング

③温暖化センターを交えたダイアログ

ビジネスセクターの施設利用に関するニーズ、課題の把握(他施設との役割分担)

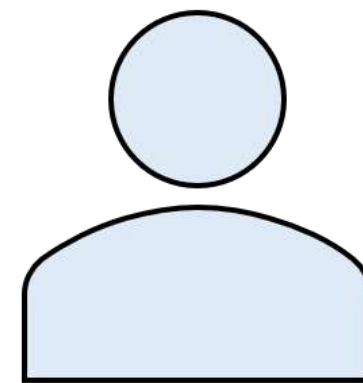
温暖化防止センターと施設の相互接続による啓発機会の拡充

設置者による気候変動教育を含むESDの推進

各環境学習施設へのヒアリングから

気候変動教育の課題や今後の展望

- 施設職員の間で、SDGs達成と脱炭素の整理が進んでいない。
- 最新の科学的知見に対応した気候変動教材が不足している。
- 既存の活動と気候変動教育との接点づくりを模索している。
- 「気候」という目に見えないモノの課題を伝える難しさがある。
- 地域企業に向けた環境研修活動へ着手できていない。
- 脱炭素や環境保全に関する地域イノベーション人材が足りない。
- 地域で活動するユースと施設のネットワーキングに期待。



各施設のみなさん

気候変動教育の取組状況と施設の特長

- 都市の産業構造そのものが、気候変動教育の資源として活用できる。
- 環境学習に関わる人材登録制度で、多様なニーズに対応可能。
- 企業と連帯し、賛助会員としてネットワーキングを強化してきた。
- 「公害発生」の歴史が利用者への強いメッセージとなっている。
- 行政、教育委員会の施策と連動した恒常的な取り組みを実現。
- 幅広い学習プログラムの中に、気候変動教育を位置づけて提供。
- 再生可能エネルギー関連施設と連動したプログラムを展開。
- 循環社会と気候変動を関連させたコンテンツを準備中。

タカミヤ環境ミュージアム（北九州市）

- ◎環境都市と公害克服の歴史をリソース活用
- ◎学校と連携する環境アクティブラーニング
- 施設による企業向け活動の不足

熊本県環境センター（水俣市）

- ◎水俣病と地域再生の歴史を教育資源に
- ◎豊富かつ多彩な環境教育人材
- 企業向け環境啓発の機会創出に課題

企業を対象とする アプローチの学び合い

宮崎県環境情報センター（宮崎市）

- ◎循環社会構築に特化した活動
- ◎自然公園やエネルギーパークとの連携
- 環境配慮企業やイノベーション人材の不足

かごしま環境未来館（鹿児島市）

- ◎地域企業の協力的なパートナーシップ
- ◎企業向けコンサルティングの実績
- 教育ニーズと気候変動教育の整理が必要

